

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
剰余金配当支払株主確定日	毎年3月31日
中間配当金支払株主確定日	毎年9月30日
基準日	毎年3月31日 (そのほか必要があるときは、あらかじめ公告いたします。)
公告掲載方法	当社ホームページ http://www.ichikoh.com/
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
特別口座の 口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先)	電話 0120-782-031 (フリーダイヤル) 取次事務は、三井住友信託銀行株式会社の本店および 全国各支店でおこなっております。
単元株式数	1,000株

- ・住所変更、単元未満株式の買取のお申出先について
株主様の口座のある証券会社にお申出ください。
なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別
口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。
- ・未払配当金の支払について
株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

ホームページのご案内

会社案内、新製品情報、採用情報、株主・
投資家情報などの企業情報を掲載しており
ます。

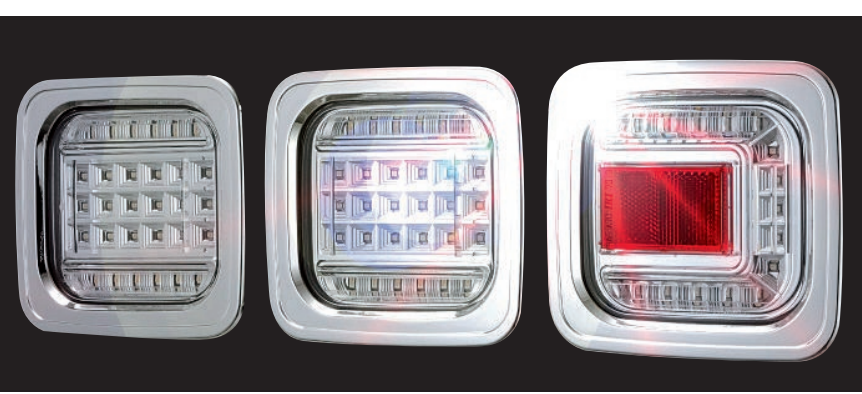
<http://www.ichikoh.com/>



BUSINESS
REPORT

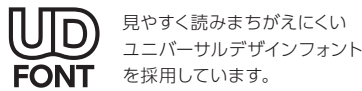
第83期中間報告書

2012年4月1日から2012年9月30日まで



a Light, a Life
ICHIKOH

市光工業株式会社 〒259-1192 神奈川県伊勢原市板戸80 TEL.0463-96-1451 FAX.0463-96-2080 URL : <http://www.ichikoh.com/>



ICHIKOH

平素は格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、ここに当社グループの2012年度第2四半期連結累計期間の事業状況をご報告申し上げます。

当第2四半期連結累計期間における我が国経済は、震災復興需要等により持ち直しの兆しを見せましたが、円高の長期化、日中関係の悪化等により先行きの不透明な状況が続きました。世界経済においては、欧州の財政問題が継続し、新興国でもその影響による景気の減速傾向が見られるなど予断を許さない状況となりました。

当社グループが属する自動車業界におきましては、震災からの復興需要やエコカー補助金の効果等により、当第2四半期累計期間における国内自動車生産台数は前年同期比で25.7%増加いたしました。

このような環境の下、当社グループは、強固な企業体質を目指し、利益確保を最優先にグループ一丸となって、よ

り一層の経費低減をはじめ、あらゆる合理化に取り組んでまいりました。

その結果、当第2四半期連結累計期間において、売上高は42,459百万円（前年同期比8.7%増）となりました。利益面では、原価低減等の合理化活動が目標に届かなかったこと等により、営業損失は192百万円（前年同期は営業利益342百万円）となりましたが、設計開発等による受取技術料876百万円等により、経常利益は1,070百万円（前年同期比57.7%増）となりました。また四半期純利益は、特別調査費用160百万円を特別損失に計上したこと等により、612百万円（前年同期は四半期純損失1,883百万円）となりました。

なお、中間配当につきましては、当社グループを取り巻く現在の経営環境や財務体質の改善等を総合的に勘案し、誠に遺憾ながら、無配とさせていただきました。期末配当

につきましては、現時点では未定とさせていただき、今後の業績動向や経営環境等を勘案し、予想額の提示が可能となった時点で速やかにお知らせいたします。

今後の見通しにつきましては、国際的には欧州財政問題の影響や、国内のエコカー補助金の終了に伴う反動減など、景気の先行きは不透明な状況が続くものと思われます。

通期の業績見通しは、連結売上高は、82,500百万円（前期比6.1%減）、経常利益は2,100百万円（前期比52.6%減）、当期純利益は2,700百万円（前期比90.7%増）を見込んでおりますが、実際の業績は、今後様々な要因により、現時点の見通しとは異なる結果となり得ることをご承知おきください。

当社は、一段と進む自動車業界のグローバル化に対応すべく、価格競争力と魅力ある商品の開発を強化し、市光グループとしての収益を確保するとともに、パートナーであ

るヴァレオとの事業提携等を通じて世界的な供給体制の充実を図るべく、経営体質の強化に取り組んでおります。

かかる中、今後も成長が見込まれる中国市場において、顧客対応の充実と事業の拡大を図るため、当社はヴァレオと共同で地域統括体制を構築し、両社のランプ関係子会社および関連会社の再編を実施することいたしました。

今後も、アジア圏を中心としたグローバル企業として、経営体質のさらなる強化と業績向上に向け邁進していく所存です。

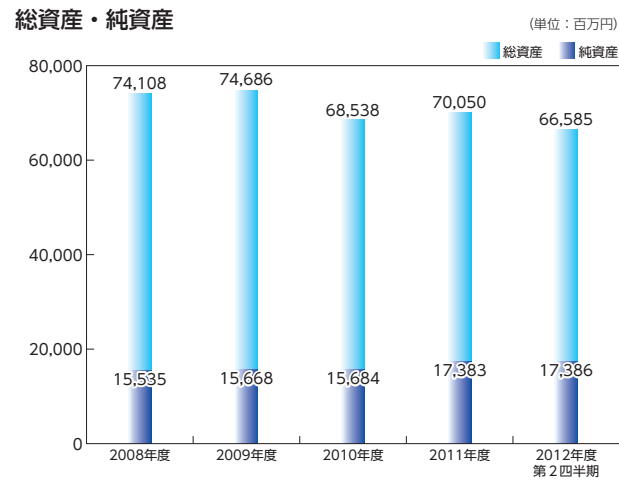
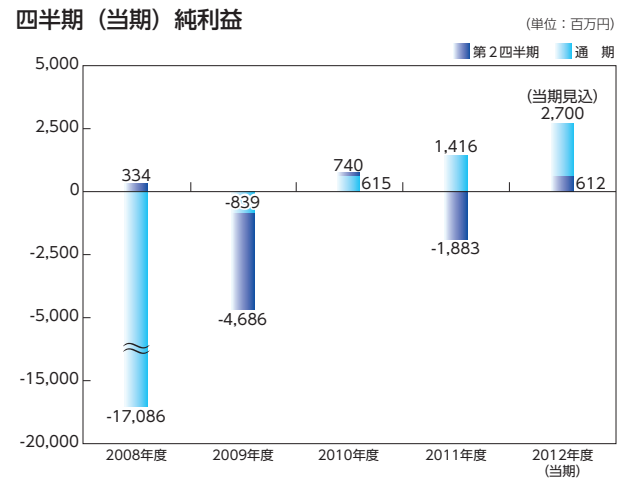
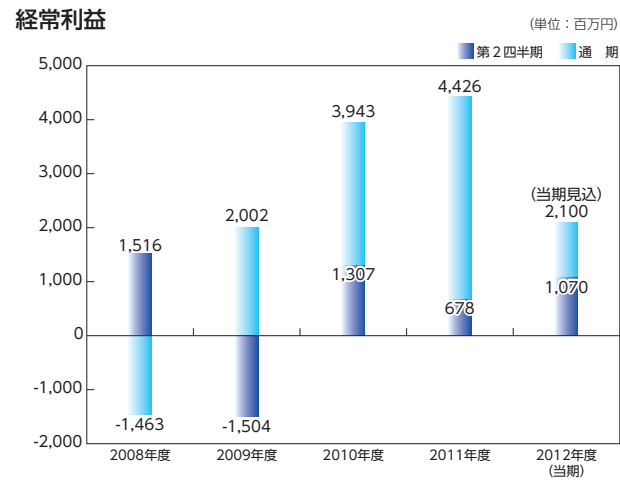
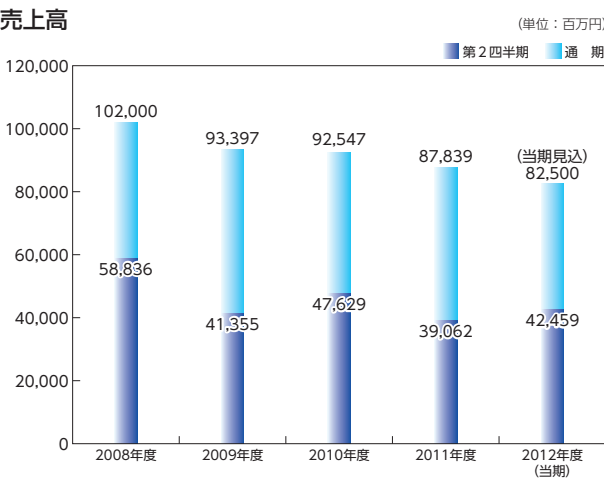
株主の皆さまにおかれましては、より一層のご支援、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長
ORDOŌBADI Ali





連結財務ハイライト



世界中が注目するLED技術の将来

自動車ランプ技術を語るグローバルコミュニティー 「Driving Vision News」 日本初のワークショップ開催



オープニングスピーチをする
社長のオードバディ。

Driving Vision News（以下DVN）は、世界のカーメーカー15社、ティア1サプライヤー18社、ティア2サプライヤー40社のトップクラスの専門家が集まるWEB上のコミュニティーです。DVNは、既にパリ、デトロイトなどで過去4回のワークショップを開催した経緯がありますが、日本では初めてとなるDVNワークショップが、7月4日に東京、恵比寿の「ウェスティンホテル東京」で開催されました。「今後は、エネルギー効率を上げインテリジェン

トライティング技術の開発を進めていかなければマーケットで生き抜けない」との調査会社の将来予測から導き出された今回のテーマは、「2012年～2020年の日本と世界のLED技術」というもの。世界中から130名余りが集まったワークショップにはICHIKOHから社長のオードバディをはじめ、研究開発部長のオリビエ、プロジェクトマネージャーの大河戸、テクノロジーマーケティング室長の白川、課長の箕川らが参加し、カーメーカーやサプライヤーの専門家の皆さんと積極的にLED技術に関する経験やアイデアを交換する機会を作ることができました。



パネルディスカッションで意見を述べる大河戸。



パネルディスカッションの様子。



イベント主催者の
ヘクター フラッティエ氏。



オリビエ、箕川の発表画面、テーマはスタイリングトレンド。



ICHIKOHの日産様向け サービス納入実績

2011年度通期でトリプルAを受賞！



ICHIKOHは、日産自動車様向け補修品の、納入精度・リードタイム・品質の3分野を基準に審査される「サービス納入実績」の評価において、2011年度通期で最高評価である「トリプルA」を受賞しました。7月25日、日産自動車株式会社サービス部品物流部主担の中村様とSCM本部サービス部品物流部の北川様がICHIKOHの専務室に見えられ、「サービス納入実績トリプルA」の表彰状と記念品を取締役専務執行役員の安藤と常務執行役員の阪田に直接手渡されました。

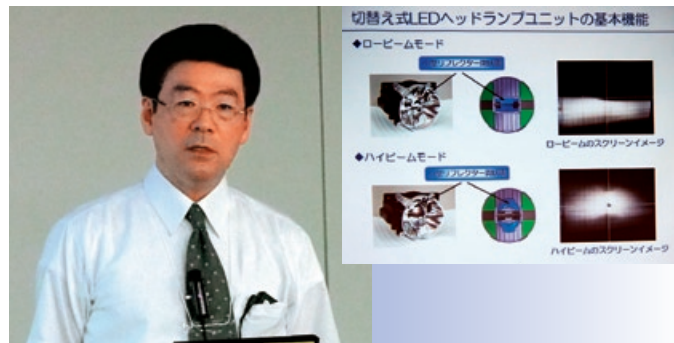


LEDヘッドランプ設計技術 自動車技術会の秋季大会で講演



10月5日に大阪中之島の国際会議場で開催された自動車技術会の2012年秋季大会で、ICHIKOHコアエンジニアリング&レイズ部の菊池が「ハイビーム／ロービーム切替え式LEDヘッドランプユニットの熱設計」をテーマに講演をおこないました。

このセミナーは、公益社団法人自動車技術会が主催する定期講演会で自動車メーカーや部品メーカーの研究者が一同に会し研究発表をするものです。今回は、多くの企業から3日間で800名余りの参加者が集まりました。講演直後にはメーカーの方や、同業他社の方からも菊池に対し詳細についての質問があり、LED光源に対する関心の高さをうかがい知ることができました。



菊池の講演内容に会場からは、多くの質問が…。



会場の、学生フォーミュラ車両展示には多くの方が集まり大盛況。

安全機器展示会に出展

売り上げ倍増計画に向け、本格的に動き出したAAM部



8月9日に開かれた、神奈川県トラック協会主催による「安全機器等展示説明会」に、ICHIKOHのオートモティブアフターマーケット部（以下AAM部）が、トラック用の各種安全ディバイスを出展しました。今回ICHIKOHが出展したのは、ドライブレコーダーと、セーフティービジョン、トラック用LEDリアコンビネーションランプ等です。当日会場には、いすゞ自動車（株）など大手メーカーも出展。主催者側から安全ディバイスの助成金説明会等もおこなわれました。新横浜駅前にあるトラック協会の会場には業界から多くの方々が訪れ、各社の安全支援技術を熱心に見入っていました。AAM部は各地で開催が予定されているこのような展示会に、今後も積極的に出展することで販売促進に取り組んでいきます。



ドライブレコーダーと、セーフティービジョンを組み合わせることで、精密な運行管理システムの構築が可能になります。

四半期連結決算概要

四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)					
科 目	当第 2 四半期末 2012年 9月30日現在	前連結会計年度末 2012年 3月31日現在	科 目	当第 2 四半期末 2012年 9月30日現在	前連結会計年度末 2012年 3月31日現在
資 産 の 部			負 債 の 部		
流 動 資 産	36,604	40,800	流 動 負 債	31,206	33,499
現 金 及 び 預 金	11,541	15,273	支 払 手 形 及 び 買 掛 金	14,500	16,102
受 取 手 形 及 び 売 掛 金	14,053	15,687	短 期 借 入 金	1,325	1,736
電 子 記 録 債 権	1,066	829	1 年 内 返 済 予 定 の 長 期 借 入 金	5,934	5,560
有 価 証 券	8	8	リ ー ス 債 務	1,809	1,995
商 品 及 び 製 品	3,507	3,985	未 払 法 人 税 等	188	209
仕 掛 品	1,061	1,018	未 払 費 用	2,812	3,048
原 材 料 及 び 貯 蔵 品	1,736	1,741	製 品 保 証 引 当 金	1,317	1,316
繰 延 税 金 資 産	104	111	環 境 対 策 引 当 金	930	940
そ の 他	3,825	2,398	そ の 他	2,386	2,589
貸 倒 引 当 金	△ 301	△ 252	固 定 負 債	17,993	19,167
固 定 資 産	29,981	29,249	長 期 借 入 金	7,513	8,641
有 形 固 定 資 産	23,092	22,319	リ ー ス 債 務	1,124	1,146
建 物 及 び 構 築 物	7,429	7,621	退 職 給 付 引 当 金	8,193	7,868
機 械 装 置 及 び 運 搬 具	4,875	4,792	繰 延 税 金 負 債	78	173
工 具 、 器 具 及 び 備 品	1,241	1,027	そ の 他	1,083	1,337
土 地	4,076	3,928	負 債 合 計	49,199	52,666
リ ー ス 資 産	2,770	2,976	純 資 産 の 部		
建 設 仮 勘 定	2,698	1,972	株 主 資 本	17,603	16,991
無 形 固 定 資 産	513	232	資 本 金	8,929	8,929
投資その他の資産	6,375	6,696	資 本 剰 余 金	2,708	2,708
投 資 有 価 証 券	3,455	3,894	利 益 剰 余 金	5,996	5,383
繰 延 税 金 資 産	118	114	自 己 株 式	△ 31	△ 30
そ の 他	2,806	2,692	その他の包括利益累計額	△ 2,453	△ 1,931
貸 倒 引 当 金	△ 4	△ 4	その他有価証券評価差額金	△ 208	106
資 産 合 計	66,585	70,050	為 替 換 算 調 整 勘 定	△ 2,244	△ 2,038
			少 数 株 主 持 分	2,236	2,324
			純 資 産 合 計	17,386	17,383
			負 債 純 資 産 合 計	66,585	70,050

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

四半期連結損益計算書（要旨）

(単位：百万円)		
科 目	当第 2 四半期(累計) 2012年4月 1 日から 2012年9月30日まで	前第 2 四半期(累計) 2011年4月 1 日から 2011年9月30日まで
売 上 高	42,459	39,062
売 上 原 価	36,482	33,069
売 上 総 利 益	5,977	5,993
販売費及び一般管理費	6,169	5,650
営業利益又は営業損失(△)	△ 192	342
営 業 外 収 益	1,665	860
営 業 外 費 用	402	524
経 常 利 益	1,070	678
特 別 利 益	36	18
特 別 損 失	243	2,422
税金等調整前四半期純利益又は 税金等調整前四半期純損失(△)	862	△ 1,724
法 人 税 等	209	110
少数株主損益調整前四半期純利益又は 少数株主損益調整前四半期純損失(△)	653	△ 1,835
少 数 株 主 利 益	40	47
四半期純利益又は四半期純損失(△)	612	△ 1,883

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

四半期連結キャッシュ・フロー計算書（要旨）

(単位：百万円)		
科 目	当第 2 四半期(累計) 2012年4月 1 日から 2012年9月30日まで	前第 2 四半期(累計) 2011年4月 1 日から 2011年9月30日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,766	1,639
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 3,032	133
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 2,333	△ 2,576
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 133	△ 178
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△ 3,733	△ 982
現金及び現金同等物の期首残高	14,988	12,706
新規連結子会社の現金及び現金同等物の期首残高	－	42
現金及び現金同等物の四半期末残高	11,255	11,766

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

株式の状況 (2012年9月30日現在)

株式の総数および資本金

資 本 金	8,929,538,428円
発行済株式の総数	96,036,851株
発行可能株式総数	200,000,000株
株 主 数	7,900名

大株主 (上位10名)

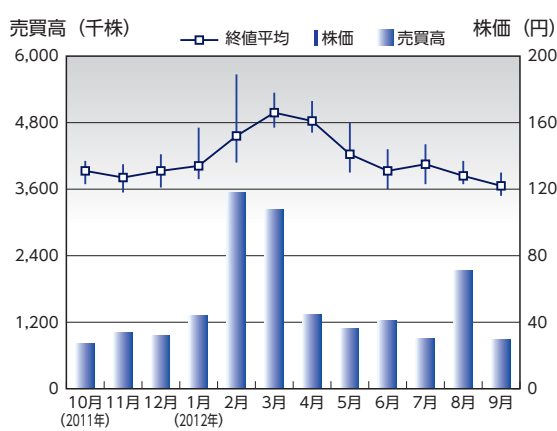
株 主 名	当 社 へ の 出 資 状 況	
	持 株 数	持 株 比 率
ヴァレオ・バイエン	30,339 千株	31.63 %
トヨタ自動車株式会社	5,869	6.12
株式会社みずほコーポレート銀行	4,775	4.97
株式会社三菱東京UFJ銀行	3,688	3.84
日本生命保険相互会社	3,687	3.84
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社	3,501	3.65
ダイハツ工業株式会社	2,712	2.82
三菱UFJ信託銀行株式会社	2,344	2.44
みずほ信託銀行株式会社	1,913	1.99
株式会社三井住友銀行	1,231	1.28

(注) 1. 持株比率は自己株式 (127,120株) を控除して計算しています。また、表示単位未満を切り捨てて表示しています。

2. 発行済株式の総数の10分の1以上の数を保有する大株主1名を含め、上位10名の株主を記載しています。

3. 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社の所有株式のうち、信託業務に係る株式数は、3,501千株であります。

株価および株式売買高の推移



会社概要 (2012年9月30日現在)

商 号
設 立
事 業 所

市光工業株式会社	
1939 (昭和14) 年12月20日	
本社・テクニカルセンター	〒259-1192 神奈川県伊勢原市板戸80 TEL 0463 (96) 1451
伊勢原製造所	〒259-1192 神奈川県伊勢原市板戸80 TEL 0463 (96) 1451
藤岡製造所	〒375-8508 群馬県藤岡市東平井1467 TEL 0274 (23) 2211
ミラー製造所	〒375-8507 群馬県藤岡市藤岡1360 TEL 0274 (23) 2121
中部支店	〒465-0025 愛知県名古屋市中東区上社4-130 TEL 052 (709) 2011
札幌営業 (アフターパーツセールス課)	〒060-0001 北海道札幌市中央区北一条西4-2-2 TEL 011 (232) 0654
熊谷営業	〒360-0031 埼玉県熊谷市末広2-118 TEL 048 (501) 1815
東京営業	〒151-0053 東京都渋谷区代々木1-59-1 TEL 03 (5302) 1715
大阪営業	〒564-0062 大阪府吹田市垂水町3-16-3 TEL 06 (6384) 6551
飯田橋営業 (カスタマーパーツセールス課)	〒112-0005 東京都文京区水道1-12-15 TEL 03 (5805) 1790

取締役および監査役

代表取締役社長	オードバディ アリ
取締役専務執行役員	安 藤 信 雄
取締役専務執行役員	井 上 誠 一 郎
取締役常務執行役員	佐 藤 直 行
取締役常務執行役員	志 田 哲 也
取締役常務執行役員	宮 下 和 之
社外取締役	アントワヌ ドットウリオ
社外取締役	齋 藤 隆 次
常勤監査役	住 野 稠 生
社外監査役	鶴 巻 暁
社外監査役	スベストル ピエール

使 用 人 数

連 結	3,052 (916) 名
単 体	1,711 (320) 名

(注) 使用人数は契約期間に定めのない使用人であり、パートおよび派遣社員等、契約期間に定めのある使用人は () 内に外数で記載しています。